

11/6 木 晴

統一協会との密接な関係が次々判明し閣僚を辞めたばかりの山際大志郎前経済再生担当相が国民党の「口ナガラ」本部長に起用され、国民の批判を蒙っています。

「説得力なし」と関係の悪くじぶんの逃れを繰り返した山際氏を党の役職に就けたことは、岸田文雄政権の無反省力を示しています。複数の副大臣のをめぐる統一協会とただちに接点があったことがも判明し、癡情は底なしです。それにもかかわらず、首相は政府としても覚悟しても責任ある調査を拒み続けています。解明の遅を向けば、こういふ「關係を断つ」というても説得力はありません。

副大臣らの疑惑も底なし  
山際氏が眞理院新型「口ナガラ」

## 主張

山際氏 党役職就任

ルス等感染症対策本部長に就任したのは10月28日です。閣僚を辞任したのは直前の24日です。11月4日の国会で首相は「人物の経験、経験を踏まえて総合的に判断した」と述べ、問題なしとの認識を示しました。国民の感覚とあまりにかけ離れていました。

内閣が見つけたたなれば、閣僚をはべきだ」が82・4%に達しました。「党の政策に反していなければ、選挙で勝つ手も持つたいようだ」が15%、「辞任の必要なし」が38%など回りあつた。昭和に遡る(5月20日、岸田首相)との直近は、明るいせば副大臣ともいわれる政権の姿勢は重大です。

## 首相はどうまで無反省なのか

担当副大臣と岸田賢司外務副大臣は、統一協会側が昨年の総

きりぱり断ち切るために

山際氏が怒りを買つたのは、統一協会の韓鶴子総裁との親密な週連続で通じてくる井野俊郎防衛副大臣の統一協会との癒着も深刻です。政治資金規正法の一場面が問われただけでなく、外部から指摘されるまで事実を認めないと誠実な態度をひいたためです。説明責任を果たさず信頼を失い、閣僚が務まらないから山際氏を「口ナガラ」本部長に任命をしたのです。同協会関係者が多く、

本紙口座版が10月23日から3週連続で通じてくる井野俊郎防衛副大臣の統一協会との癒着も深刻です。政治資金規正法の一場面が問われただけでなく、外部から指摘されるまで事実を認めないと誠実な態度をひいたためです。説明責任を果たさず信頼を失い、閣僚が務まらないから山際氏を「口ナガラ」本部長に任命をしたのです。同協会関係者が多く、

選舉の際に示した「推薦確認書」に署名したことをそれを認めました。木原誠一内閣官房副長官も、昨年の総選挙で同協会の関連団体から推薦状を取ったことがあります。これまでの癒着を今こそきっぱり断ち切らなければなりません。これまでの癒着を洗いざらい調査し、公表する」とが不可欠です。それができない岸田首相と国民党とは政権を握り資格そのものが問われます。